

水環境館指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和6年10月10日(木) 13:10~16:00
- 2 場 所 北九州市役所15階 15D会議室
- 3 出席者 (検討会構成員) 鬼束構成員、松本構成員、山田構成員、植田構成員
(事務局) 都市整備局水環境課長、企画調整係長、職員

4 会議内容

- 施設の概要、検討会構成員について、事務局より説明
- 構成員の互選により、座長を選出
- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明
- 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明
- 応募団体「公益財団法人北九州生活科学センター」から、提案内容についてのプレゼンテーション及び質疑応答を実施

(構成員) 水環境館の周辺施設との連携はどのように考えているか。

(応募団体) 地下通路で繋がっている井筒屋さんとの連携を考えている。通路を活用して利用客を取り込んでいきたい。

(構成員) 情報発信について、どのようなツールを使ってどれくらいの頻度で発信を考えているか。

(応募団体) インスタグラムの発信を最優先と考えている。水環境館の日常の様子を週に何度か発信していきたい。

(構成員) 人員配置について、提案書では正規職員3名を基本としているが、一方で人員配置計画表では正規職員2名とパート1名が常勤する計画であると理解したが、実際はどのような体制を考えているのか。

(応募団体) 基本的に水環境館の館長、事務・企画、水槽スタッフの3名が正規職員で、週休2日になると思うが朝から晩までずっと常駐するということではない。それから常勤の案内スタッフをパート2名で計画している。

(構成員) 教育プログラムの策定に関して、北九州市環境整備協会との連携を考えられているが、これまでに教育プログラムを実施した実績はあるのか。

(応募団体) 我々単独で教育プログラムを実施した経験はない。ただ、環境教育の経験がある団体のOB職員がいて、実際に子供たちへ提供した学習コンテンツのノウハウがあるので、それを徐々に水環境館で発信していきたいと考えている。

(構成員) 水辺の教室について、今までで何回くらい実績があるのか。また、どのような働きかけで実施しているのか。

(応募団体) 北九州市環境整備協会との共催で4、5回ほど開催している。北九州市

環境整備協会さんが働きかけて取ってきたものに共同で一緒に参加させていただいている。

(構成員) 財政状況を見ると、令和4年度と令和5年度は赤字を計上している。予算どおりだったのか、予算と何か乖離してしまったのか。要因を教えてください。

(応募団体) 当センターではコロナウイルスのPCR検査を受託して実施しているが、途中で体制を大きく強化した関係でそれを引きずって令和4年度から赤字を計上している。予算どおりかと言われると、あらかた赤字予算なのは分かっている、今は体制を引き締めて健全化を図っている。

(構成員) 令和6年度は黒字化しそうなのか。

(応募団体) 黒字化までは難しいが、財団法人なので積立などその他の財産がある。また、昨年度に比べればかなり支出を抑える見込みなので赤字は減ると考える。

(構成員) 収支計画書の人件費において、5年間同じ金額を計上しているが昇給などは想定していないのか。

(応募団体) 実際は少しずつ昇給させることを考えている。

(構成員) 指定管理料の提案額について、提案概要の金額と提案書及び収支報告書の金額が乖離している。どちらが正しい金額なのか。

(応募団体) 提案概要の金額は誤りで、提案書及び収支報告書が正しい金額である。訂正する機会がなく、申し訳ない。

(構成員) 高齢者や障害者等の雇用促進について、提案書ではスタッフの雇用年齢に上限を設けないとしているが、人員配置計画表では館長と事務・企画以外は上限を設定している。その整合性はどうか。

(応募団体) 人員配置計画表ではどのように表現してよいか分からず上限を明記したが、実際の雇用に関しては上限を設けずに募集する計画である。

(構成員) 水質に関して、生物学的な水質判定の指標はよく分かっていると思うが、実際に水生生物を飼育する場合の水質に関するノウハウなどはあるのか。

(応募団体) 当センターではメダカやエビなどを飼育している。また、魚や水槽の管理に詳しい経験豊富な水産大学出身者が多数在籍している。

○ 構成員は、提案内容のヒアリングと質疑応答を受けて、**各自得点を評価シートに記入**

○ 応募団体「玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体」から、提案内容についてのプレゼンテーション及び質疑応答を実施

(構成員) 入館者数はどのようにカウントしているのか。

(応募団体) 北口、南口、中央口の3つの出入口にセンサーを設置してカウントしている。

(構成員) ライフジャケット貸し出しの実績はどれくらいあるのか。

(応募団体) 今年の実績は、北九州市内の子ども会やNPO団体、消防団体などに貸

し出している。

(構成員) 太平ビルサービスの決算資料では仮払金が少し多いと感じるが理由は。
(応募団体) 具体の理由は分からないが、太平ビルサービスの財政状況としては健全だと思うので大きな問題は含んでいないと考える。

(構成員) 情報発信について、施設案内やイベントのチラシなど作成されると思うが、部数や配布先など、予算をつけてどのような展開を考えているのか。

(応募団体) SNSではしっかりと情報発信している。紙媒体のチラシなどについては、他の施設のチラシはよく要望を受けて水環境館に置いているが、我々水環境館のチラシは他所の施設に置いたことがない。今後は、水環境館の外の施設にチラシを配布し水環境館のPRをしたいと考える。

(構成員) 水環境館の館長が紫川周辺にぎわい創出プロジェクトの実行委員会メンバーとなっているが、これまでに水環境館周辺エリアの観光施設や商業施設と連携した実績があれば教えてほしい。

(応募団体) 小倉城の指定管理者と連携して小倉城の歴史を学びカヌーを体験できる小倉城お濠カヌーを開催している。また、リバーウォーク前の紫川親水広場を活用した水辺のコンサートやSUP協会と協力して開催した夜のSUPなどがある。また、井筒屋さんとコラボして木工で何かやろうと、SDGsに絡めて水環境館に置こうと計画したことがあったが、残念ながら新型コロナの影響で実現できなかった。今後、井筒屋さん、リバーウォークさん、小倉城さんと連携を強めて、まちの賑わいに努めてまいりたい。

(構成員) 水の環境学習の拠点としてどのような環境学習を実施しているのか。

(応募団体) 施設内では、紫川の環境改善に取り組んだ歴史の説明、それから観察窓から見える魚や水槽で飼育している水生生物の生態観察などを実施している。また、施設の外では、実際に流れる川に触れ合って体感する環境学習も行っている。

(構成員) 水環境館を訪れる外国人の方は、観光客だけでなく環境を学びたい人も多く来館されると思うが、外国人の方への対応はどのようにしているのか。

(応募団体) JICAを通じて来館される場合は通訳者がいる。それ以外の観光客には、水環境館の職員に語学力の長けた者がいないので説明などの対応がなかなか難しいが、ジェスチャーを交えておもてなしの心を持って、できるかぎり丁寧な対応をしている。最近ではインバウンドで個人の外国人のお客様が増えて、カヌーに乗ったり、北九州市の環境を知っていただく機会が増えている。一方、団体客の受入れについては我々の今後の課題と考えている。

(構成員) 提案書にある5年間のアンケート表について、令和7年度からの5年間の数字が記載されているが、これはどのような数字なのか。

(応募団体) 結果の数字ではなく今後5年間の目標値を記載している。表現が分かりにくく申し訳ない。

(構成員) 広報に関して、小学校へ配布した案内文の効果はあったと評価されているが、SNSなど情報発信についての効果は分析しているのか。

(応募団体) SNSについての効果の分析は特に行っていない。ただ、バズるような内容があれば閲覧数が伸びるので、そういった客観的な数値や反響は確認することができる。やはり、まめに頻度を上げてSNSを発信することがお客様へのアピールに繋がると感じている。

- 構成員は、提案内容のヒアリングと質疑応答を受けて、各自得点を評価シートに記入
- 各構成員の評価シート（2団体分）を回収し、得点を集計
- 構成員は、評価した内容を発表。その後、構成員全員で意見交換

(構成員) 公益財団法人北九州生活科学センターについては、年度ごとの具体的な入館者数の目標値が設定されておらず、毎年入館者数を増やしていこうという意識が感じられなかった。また、指定管理料の提案額に誤記があり、資料の見直しが不十分であった。熱意はとても感じたが、全体的に提案内容に具体性がなかった。

玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体については、現在の水環境館の指定管理業務において成果を上げており、実績と経験は十分にある。また、入館者数の目標値設定、提案及び自主事業の実施内容や頻度など、詳細な提案があり具体性があつた。

(構成員) 公益財団法人北九州生活科学センターについては、水質分析を体験できる水の科学学習や微生物の観察などこれまでにない取り組みでありとても良い提案であった。しかし、水辺の利用促進に関しては、特段の魅力を感じなかった。効率性に関しては、自主事業の経験がないため安定して収入源を確保できるか少し不安である。また、人員配置について、水槽管理者が1日1時間程度の勤務計画であったので、正規職員の配置が少し手薄であると感じた。

玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体については、総じてこれまでの実績と経験が十分にあり、人員配置それから専門性に関しても申し分ない団体である。水辺空間の利用促進に関しても様々なイベントが企画され、全体的に賑わいの創出や川を楽しく学ぶ点では魅力的な提案であった。ただ、生物だけでない水の環境にも少し視点を持ってほしいと思った。

(構成員) 公益財団法人北九州生活科学センターについては、検査機関としての実績があり、専門的な資格者も多く在籍していること、また水と環境の大切さの学びやSDGsの推進など高い理念が伺え、さらに設立54年ということで基盤も安定しているため指定管理者としての適正を有している。有効性の取り組みに関しては、新しいドリンクやスイーツの開発は期待できると感じた。また水辺空間の利用促進で提案があつた自主事業は面白い企画だと思った。

玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体については、既に実績と経験

があり、これまでに取り組んでいた内容に加えて、子育て世代の交流場所としての提案もあったので評価できる。効率性に関しては、自ら清掃を行うなど経費を抑える工夫がなされていた。これまでの実績を踏まえた魅力的な自主事業が数多く提案されていたので安定した収益が期待できると感じた。適正性に関しては、共同企業体として構成団体それぞれの強みを活かした業務の責任分担がきちんと確立された提案であった。また、SDGsの達成に関して河川周辺の清掃活動はとても良い取り組みであると思った。

(構成員) 公益財団法人北九州生活科学センターについて、水質分析や検査を体験できる水の科学学習は、これまでの水環境館に足りない部分を補う良い取り組みだと思う。ただ、少し硬めの学習寄りの取り組みが多かったため、賑わいをつくり、もっと集客を増やすには、気軽に来てもらえるイベントの提案があれば良いと感じた。水辺空間の利用促進に関する自主事業については具体的な提案が少なかったが、新たに提案された企画は心を惹きつけられるものであった。SDGsに関しては、川や水に係る提案がなく物足りなさを感じた。

玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体については、これまでの実績や自主事業の充実度、周辺施設との連携など、集客に工夫された具体的な提案があり評価できる。また、紫川を流域全体で考えながら環境学習や賑わいの創出に取り組んでいる。SNSやホームページなどでしっかり情報発信されている中、他の施設にチラシを配布するなどして、新規集客の取り込み方について具体的な提案があった。

○ 各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての各団体の評価レベルを決定

○ 事務局は各団体の合計得点を発表

公益財団法人北九州生活科学センター 「78点」

玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体 「95点」

○ 検討会としての検討結果（総合的な意見）について協議

(構成員) 公益財団法人北九州生活科学センターについては、水や環境に関する専門的な知識と資格を持った人材が多く在籍し、財政基盤も安定している。また、強い熱意を感じられたことから指定管理者としての適性は十分にある。有効性に関しては、水の科学学習は新たな取り組みであり素晴らしいが、集客につながるイベントや水辺空間の賑わいを創出する魅力的な提案が少なかった。さらに収入が見込める自主事業の具体的な提案も少なかったため、収益還元の見通しに不安がある。

一方、玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体については、これまで

の指定管理業務での取り組みが高く評価されており、申し分ない実績と経験を持った団体である。紫川を流域全体で考え、魅力的かつ充実した企画やイベントが具体的に提案され、安定した収益も期待でき、集客に向けた周辺施設との連携もしっかりと考えられている。また、共同企業体として構成団体それぞれの強みを活かした業務の責任分担がきちんと確立され、経費を抑える工夫もなされている。

以上、検討会としては、高い合計得点と最も優れた提案を行った**玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体**を指定管理者の候補として相応しいと判断する。

- 事務局より、今後の指定管理者選定に関するスケジュールなどの説明を行い、検討会を終了